

小林秀雄，坂口安吾

2019 年本試

問 7 自己のあり方をめぐる様々な思想の説明として最も適切なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 

7
---

- ① ヤスパーズは，死や争いなどの困難な状況を克服し，自己の無限の可能性にめざめた者が新たに他者と相対することを，「実存的交わり」と呼んだ。
- ② トルストイは，二度の世界大戦を招いた文明の病理を克服すべく，「生命への畏敬」に基づき自己をあらゆる生命体の同胞とみなすことを説いた。
- ③ 小林秀雄は，戦前の日本の超国家主義を「無責任の体系」と批判し，自由と責任を内面化した自己を確立することが戦後の課題である，と主張した。
- ④ 坂口安吾は，敗戦に戸惑う日本人の人々に敢えて「墮ちよ」と説き，旧来の道徳に寄りかからず，ありのままの自己と向き合うべきである，と論じた。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 1 問	問 7	7	④	3

2014 年追試

問 8 次の文章は、戦後のあるべき社会や生き方についての主張の記述である。

□ a □ ～ □ c □ に入れる語句の組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。 □ 27 □

□ a □ は、「何となく何物かに押されつつ、ずるずると」開戦に至り、戦争をやめることができなかつた戦前・戦中の日本社会に、無責任の体系を見いだし、批判的な検討を加えた。そして、戦後の社会において、□ b □ による民主的な市民社会の形成を唱えた。一方、竹内好は、中国の近代化に、日本とは異なる可能性を読み取り、日本の近代化の優等生的な性格を批判し、アジアに開かれた日本のあり方を模索した。

また、坂口安吾は、人間本来の姿に戻ることを□ c □ と呼び、偽り飾ることのない「ただの人間になる」べきだと主張した。時流に乗って民主主義を主張する人も多くなか、彼は一人ひとりが新たな戦後を反省的に始めるべきだと説いたのである。

- |   |   |      |   |       |   |    |
|---|---|------|---|-------|---|----|
| ① | ア | 丸山真男 | イ | 労働者階級 | ウ | 諦念 |
| ② | ア | 丸山真男 | イ | 労働者階級 | ウ | 墮落 |
| ③ | ア | 丸山真男 | イ | 近代的主体 | ウ | 諦念 |
| ④ | ア | 丸山真男 | イ | 近代的主体 | ウ | 墮落 |
| ⑤ | ア | 小林秀雄 | イ | 労働者階級 | ウ | 諦念 |
| ⑥ | ア | 小林秀雄 | イ | 労働者階級 | ウ | 墮落 |
| ⑦ | ア | 小林秀雄 | イ | 近代的主体 | ウ | 諦念 |
| ⑧ | ア | 小林秀雄 | イ | 近代的主体 | ウ | 墮落 |

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 8	27	④	3

